

誰一人取り残さない 安全安心なやさしいまちを目指して

Re Start

まちづくり推進課（内線326）

Vol.15

中学生保護司 今年はいオンで活躍

7月は「社会を明るくする運動」の強調月間でした。今年も「一日中学生保護司」として委嘱された市内各中学校の代表生徒たちが、保護司の皆さんや市長らとともに街頭啓発を行いました。

今年も、委嘱式も街頭啓発もイオンモール土岐で行い、イオンモールを訪れた方々にうちわを配りながら声掛けを行いました。若者が、犯罪や非行とその立ち直りについて考える良いきっかけになりました。



人権感覚を高め お互いを認め合う 人権尊重のまちづくり

人権のまど

まちづくり推進課（内線326）

外国人の人権

出入国在留管理庁の発表によると、令和4年末の在留外国人数は307万5,213人で、初めて300万人を超え過去最高を更新しました。こうした中、文化の違いによる理解不足などから外国人に対する偏見や差別が生じています。

日常生活では、外国人を特別視することなく文化の違いを尊重すること、また就労の場においては、日本人と同様の扱いで、その能力が十分に発揮される環境を整えるなど、外国人が偏見や差別を受けることなく、地域社会の一員として生き生きと安心して生活できる社会づくりが大切です。

外国人に対する偏見や差別をなくしていくため、文化などの多様性を認め合い、外国人の生活習慣などを理解・尊重するとともに、お互いの人権に配慮した行動をとりましょう。

外国人のための人権相談窓口
（法務省ホームページ）



ようこそ手話の世界へ 福祉課（内線217）

これまでに紹介した手話写真の動画を見ることができます。



もしもに備えて

台風やゲリラ豪雨などにより、さまざまな災害が各地で起こっています。緊急速報やサイレンが聞こえず、リアルタイムで情報を得ることができない人は、今自分がおかれている状況が分からないという「情報のない恐怖」にさらされます。

東日本大震災の時、避難指示の放送を知らずに逃げ遅れた人がいた一方で、近所の方の声掛けで一緒に避難して助かった人もいました。生死を分けた一つの理由としてあげられるのは、普段からの地域とのつながりです。日常的なコミュニケーションの積み重ねが地域の一員としてのつながりをつくり、万一の災害の時の大きな支えになります。

日頃のあいさつや交流は聞こえる人も聞こえない人も、双方にとって大切なコミュニケーションです。そして、「身近な人々との助け合い」は災害時に生き延びるカギとなり、災害に対する一番の備えになります。聞こえる人も聞こえない人も、近所の方との小さなコミュニケーションから始めてみませんか。

かんたん手話講座 「避難所へ行こう」

「避難所」



両拳を右上にさっと上げる



右手の指を折り曲げ、下に向けて軽く下ろす

「一緒に行く」



人差し指を左右から寄せるように添わせ、前に出す